

新生美術館基本計画検討懇談会（第1回）会議録（概要）

日 時：平成25年7月18日（木） 11:00～12:00

場 所：県立近代美術館ワークショップルーム

出席委員：牛尾委員長、石丸委員、奥委員、河島委員、瀬古委員、廣瀬委員、布野委員、保坂委員、三原委員（五十音順・敬称略）

欠席委員：佐野委員、北川委員、長谷川委員、南委員、山本委員（同）

【議事要旨】

議 事

- (1) 新生美術館の検討に関するこれまでの経緯と今後の方針について
- (2) 新生美術館立地・機能配置の案の比較検討について

(開会 挨拶)

(委員長 選出) 牛尾委員が委員長に選出された。

(事務局 資料説明)

○瀬古委員

- ・ アクセスについて、A案でもB案でも、現在地の本館へは瀬田駅や南草津駅からのバスが、美術館の入り口にまでは入ってこられない。今日も公園内の駐車場から歩いてきたが、公園内の道路の拡張や駐車場からのアクセスを良くすることが、この計画の中に入っているのかどうかをお聞きしたい。
- ・ 新名神高速道路の開通により、特に県内や名古屋・三重県方面から近代美術館周辺へのアクセスがさらによくなっている。駐車場の場所が近くなり、路線バスがたとえば図書館前で降りられると美術館まですぐになるので、アクセスの改善をお願いしたい。

○事務局

- ・ 今おっしゃっていただいたことは、昨年度の会議でもご意見をいただいております。基本計画をまとめていく中で検討が必須ととらえている。利用者の皆さんからの意見でも、同様の意見がたくさん出ており、A案でもB案でも、しっかり位置づけていきたいと思う。

○北川委員

- ・ 駐車場からのアクセス改善に加えて、駐車場から歩く道についてはそれも美術館の一部というとりえ方もある。4月に直島の地中美術館へ行ってきたが、駐車場から美術館の入り口までが坂で遠いけれども、途中でモネの庭があり、入り口までが既に美術館の一部になっている。資料にも施設の文化性やシンボル性という言葉があるが、エリア全体が美術館であるというや

り方はあるかと思う。

- ・ 今日、駅前候補地の一つの例として浜大津駅前を見せてもらった。最初はいいと思ったが、こちらに来ると、森の中の自然のイメージこそ「美の滋賀」を表現できると思い、A案の方がいいと思う。「瀬田の森美術館」というような、そこへわざわざ行くというイメージがふさわしいと、改めて思った。
- ・ A案で増築をする場合、森を壊すのではなくて、長年かけて育っている木を活かして、例えばツリーハウスや木登り、ハンモック等が体験でき、子どもたちが喜ぶような遊びや学びの要素を入れた施設も取り入れられたら、非常におもしろいことになるのではないかと。

○保坂委員

- ・ B案の場合、現在の近代美術館と同じような美術館施設をつくるよりも、明確にカラーを分ける必要があると思う。仏教美術が新しく入ることで、本館はいい意味で敷居の高い、格式の高い美術館になると思うが、まちなかの分館を考えるのであれば美術館という言葉が合わないぐらい、いい意味で敷居の低い美術館にしてほしい。
- ・ 資料に次世代育成、地域の賑わいへの貢献という言葉があるが、まちなか分館での展示が想定されているアール・ブリュットは、美術の専門家以外の人たちが手弁当で、いろんなアイデアを出し合って展覧会をつくっている。その動きを止めるのではなく、美術の専門家以外の人たちも参加することで展覧会をつくっていくことをさらに展開していくような美術館とすることも可能だろう。「パブリックアクセス」の可能性が今、いろいろな分野で説かれているが、美術館運営においてもそれができるのではないかと。
- ・ 分館的な施設や分館を有する美術館は運営の難しさがあり、どちらでも企画展をやりますよというような、同じタイプの美術館が複数になってしまうと、結局、何をやっているのかわからなくなってきたり、セクショナリズムが出てきたりするるので、コンセプトの段階で明確な差異化を図ることが必要で、相乗効果も生まれると考える。

○布野委員

- ・ 滋賀をみんなの美術館に、あるいは美の発信基地のネットワークというコンセプトと、分館を置くという手段は全然違うと思う。私は建築が専門なので、空間的には分館の方が機能的には明確になると思うが、人員増加や運営コストの増加等の課題が出てくる。
- ・ また、「分館」という以上、AもBももともとなるイメージは変わらない。となると、面積をどう割り振るか、まちなかの方はどう扱うか、その中で賃料等のコストがどうなるか等を考える必要があり、本館と分館の間のアクセスの問題も出てくる。

○三原委員

- ・ 初めてA案、B案が出てきたが、もしも分館というものを設置するならば、本館の小型を分館として大津に置くのではなく、保坂委員もおっしゃたようにカラーを分けるべきだと思う。大津市内はギャラリーが少ないため、本館のギャラリーを企画展示室にして、駅前の分館をギャラリー専門とすると、多くの人が喜ぶのではないかと。

○事務局

- ・ 新生美術館の使命の一つに「美の滋賀」の拠点があり、地域としっかりつながりながら展開をしていく、その根っこの部分を果たしていかないといけない。今回の比較案では、前提は同じだが、一体的にした方がいいのか、分館として固定的に一部を切り出す方がいいかという比較。どちらの案でも各地域とつながり、あるいは団体とつながるという部分は、果たしていかないといけないだろうと思う。

○布野委員

- ・ 実際に分館を置こうとすると、相当色々な問題があるだろう。予算、人員配置、本館とのアクセスの問題などが考えられる。

○河島委員

- ・ 県立美術館は県内1カ所になり、広い県だと、周辺以外の人に行くのが大変というのは、どこの県でも共通した問題であり、B案の魅力となる点になる。しかし、委員の方々がおっしゃったように、館長が両方を管理しながら学芸員も仕事が多い中で、2カ所に分けることの非効率性が大きな問題になる。人件費、光熱費等を含めて、コスト面ではB案は、結構高くてつきそう。
- ・ ただ、まちなかに分館をつくる意義としての、県民にとってのアクセス改善を考えると、もう一步進めて移動ミュージアムがあってもいい。いろいろな地域に巡回していく、こちらから出ていくという姿勢があってもいいのではないかな。
- ・ そう考えるとA案を充実させた方が、将来的にもよりどころが出てくるかなと思う。これからの美術館は社会に浸透していくということを重視する必要がある、もう一步進めて移動美術館という観点も考慮していただいた方が、将来的にはより良いと思う。
- ・ B案では展示内容を分野で分けるとなっているが、近代美術館の目玉が仏教美術になっていくとすると、A案で仏教美術目当てに来たが、アール・ブリュットや他の分野の美にいろいろ触れて帰って、新生美術館のコンセプトに自然に触れる機会が多い方がいいと思う。結論としては、自分としてはA案である。

○石丸委員

- ・ 美術館の交通アクセスは、たとえば、MIHO MUSEUMも佐川美術館も場所は不便だが、駐車場と美術館の入り口を近づけたり、駐車場から電気自動車で行って運ぶなどしており、利用者は12万~13万人来ている。立地が街から遠いとか、遠くないというのは余り関係ないと思う。
- ・ 分館というと、本館の機能と同じことを何らかの形で分館でもやるということだと思うが、完全に分けるということか。機能的にはミュージアム的な形で新生美術館の検討はスタートしていると思う。それならば分館は徹底して美術作家、グループ、個人、いろんな形で利用のし

やすいギャラリー的な施設に特化するという考えもできる。

- ・ 要は、徹底的に利用しやすい機能をつくり、利用者にとできるだけいろんなことをやらせようという割り切った、まちなかにつくればよいのではないか。
- ・ 何人かの委員がおっしゃったとおりで、初めからそういうことを徹底して、本館・分館どちらかの美術館のグレードが高い、低いとかということではなく、どういう形で利用するかを決めたいと思う。

○奥委員

- ・ 先ほどの説明でA案B案の検討時にあらかじめ分館の場所は特定せず、B案を選択すると決めた後に具体的な場所を選定するとあったが、適切な場所がなければどうするのかという問題があり、たまたま空いていた場所に無理に設置するといった中途半端なことにもなりかねず、その考え方は厳しいように思う。
- ・ それと、保坂委員がおっしゃったような、割と敷居が低い美術館にして、そこで差異を設けるというのは賛成だが、アール・ブリュットの作品を購入して収蔵するとなると、それなりにコストがかかるのではないか。また、コストも増え、空間も必要になる。新しいもののほうが、古いものよりかえって壊れやすいということもある。
- ・ 私の職務からいうと、文化財を指定して価値づけによる差異を設けて、厳重に保護するという仕事をしているが、だからといって、それ以外のものを軽んじるようなことはしてはいけないと思う。購入したものは責任を持って、いい環境で保管することを考えなければならない。敷居が低いということが、低コストでなく、やはり保管にはコストがかかることを申し上げておきたい。
- ・ 今日、駅前の分館の候補地例の一つである浜大津駅前を拝見して、近代美術館に来たが、これぐらい離れていると、連携といっても現実的に両方に携わるということは無理だ。10キロ以内という条件を設けることによって、それ以内なら両方に携えるという前提がつくられてしまわないか、気になる。10キロでも何でも、とにかく離れてしまえば、別の館として独立性が出てくる。
- ・ 企画段階で関連性をもたせるとか、全く別のことをやっているのではないという形で連携することは可能かと思うが、実質的にそれ以上のことは無理だと思う。別の館をつくるという言い方をしてしまった方がいいと思う。

○廣瀬委員

- ・ B案のアイデアでいいと思える部分は、河島委員がおっしゃったように出前型・出張型での事業を行うことで、十分に効果が得られると思う。
- ・ 分館ではなく、守山、湖西、湖東、湖北等の各地域に向けて、1日だけでなく1週間や1カ月等の期間で、何かその町に「美の滋賀」の拠点づくりのきっかけになるような形で、巡回型でやっていくというアイデアは、この「美の滋賀」を発信するには非常に効果的ではないか。
- ・ 作品の収蔵という点では、B案は解決策にはなりにくいと思うので、この場所でもなくても収蔵に合った場所をつくるというC案もありえるかもしれない。

○牛尾委員長

- ・ ありがとうございました。
- ・ 全委員からそれぞれご発言をいただいた。今後、事務局で整理をしていただき、次回、それをまとめたものをお出しいただいて、さらなるご意見をいただくということにしたい。
- ・ 時間が限られていたため、まだまだご発言しようと思いの方もたくさんいらっしゃると思うが、今日のところは懇話会の議事としては終了したい。

3 閉 会

○事務局

- ・ 本日いただいたご意見や、現在進めている県政モニターへのヒアリング等の結果等を踏まえて、資料をより充実させ、次回8月5日の第2回懇話会で、改めて評価をお願いしたい。

(閉 会)

以 上